

おらがまち

社会福祉法人雄勝なごみ会

地域生活支援拠点 愛光園

地域生活支援拠点として、地域に根ざした活動を展開する障がい者支援施設「愛光園」。令和3年から「秋田県障がい者の生涯学習支援モデル事業」に取り組み、障がい者と地域が共生する社会の実現に向けた多様な活動を行い、その実績が評価され、令和6年に文部科学大臣表彰を受賞しました。

目指す社会と課題

「私たちが目指すのは、障がい者が生涯を通じて学び、成長できる場を提供すること、そして地域の人たちが障がい者と共に暮らすための理解を深め、その日常が当たりまえの社会になることです」と話す築田さん。

愛光園はこれまで、「eスポーツフェスタ」「まるっとマルシェ」「防災フェスティバル」など多彩なイベントを開催しており、これらのイベントは障がい者が地域住民と交流を深めたり、社会参加するための重要な機会となっています。一方で築田さんは「障がい者自身の学びのニーズに十分にこたえられていないのも事実で、地域における学習の場や機会をいかに創出していくかが今後の課題です」と話しました。

共生社会の実現に向けて

愛光園は現在、高齢、障がい、児童といった専門分野ごとの事業を展開していますが、今後



地域生活支援拠点 愛光園

課長 築田 雄亮 さん

共に学び、生きる共生社会を

は地域のニーズに応じて「ごちゃまぜ」の地域づくりを進めるとしています。

築田さんは「障がいの有無に関わらず、顔の見える関係性を持ち続け、すべての人が共に暮らせる環境を整えることに力を入れたいと思っています」と話します。今年度の取り組みの一つとして、11月に開催を予定している防災フェスティバルでは、昨年行った地域住民向けの防災教育を強化。障がい者の防災対策に焦点を当て、地域住民が障がい者と共に避難所で生活するために必要な配慮について、多くのかたがたに知っていただける内容となっています。

モデル事業の期間は終了しましたが、障がい者が生涯を通じて学び、参加できる社会や、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、愛光園の取り組みはますます重要性を増しています。



ニュースポーツフェスタ(バブルボール)



防災フェス(水消火器訓練)